

環境省による事業

令和5年度

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(集合住宅の省CO₂化促進事業)のうち

■ 低層ZEH-M(ゼッチ・マンション)促進事業

公募要領 (追加公募)

令和6年1月

補助金を申請及び受給される皆様へ

一般社団法人 環境共創イニシアチブ(以下「SII」という。)が取り扱う補助金は、**公的な国庫補助金を財源としており、社会的にその適正な執行が強く求められます。当然ながら、SIIとしても厳正に補助金の執行を行うとともに、虚偽や不正行為に対しては厳正に対処いたします。**

本事業の補助金の交付を申請する方、採択されて補助金を受給される方は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号。以下「補助金適正化法」という。)」及びSIIが定める「令和5年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(集合住宅の省CO2化促進事業)」交付規程(以下「交付規程」という。)をよくご理解の上、また下記の点についても十分にご認識いただいた上で補助金受給に関する全ての手続きを適正に行っていただきますようお願いいたします。

- ① 補助金に係る全ての提出書類において、いかなる理由があってもその内容に虚偽の記述を行わないでください。
- ② 偽りその他の不正な手段により、補助金を不正に受給した疑いがある場合には、SIIとして、補助金の受給者に対し必要に応じて現地調査等を実施します。
なお、事業に係る取引先(請負先、委託先以降も含む)に対して、不明瞭な点が確認された場合、補助金の受給者立ち会いのもとに必要な応じ現地調査等を実施します。その際、補助金の受給者から取引先に対して協力をお願いしていただきます。
- ③ ②の調査の結果、不正行為が認められたときは、当該補助金に係る交付決定の取消を行うとともに、受領済の補助金のうち取消対象となった額に加算金(年10.95%の利率)を加えた額をSIIに返還していただき、当該金額を国庫に返納します。また、SIIから新たな補助金等の交付を一定期間行わないこと等の措置を執るとともに当該事業者の名称及び不正の内容を公表することがあります。
- ④ 補助金に係る不正行為に対しては、補助金適正化法第29条から第32条において、刑事罰等を科す旨規定されています。あらかじめ補助金に関するそれら規定を十分に理解した上で本事業の申請手続きを行うこととしてください。
- ⑤ SIIから補助金の交付決定を通知する前に、既に発注等を完了させた事業等については、補助金の交付対象とはなりません。
- ⑥ 補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合、若しくは補助事業の一部を第三者に委託し又は第三者と共同して実施しようとする場合の契約(契約金額100万円未満のものを除く)に当たっては、環境省から補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている事業者を契約の相手方とすることは原則できません(補助事業の実施体制が何重であっても同様)。
- ⑦ 補助金で取得又は効用の増加した財産(以下「取得財産等」という。)を、当該取得財産等の処分制限期間内に処分しようとするときは、事前に処分内容等についてSIIの承認を受けなければなりません。また、その際補助金の返還が発生する場合があります。なお、SIIは、必要に応じて取得財産等の管理状況等について調査することがあります。
※ 処分制限期間とは、導入した機器等の法定耐用年数(減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年3月31日大蔵省令第15号)に定める年数)の期間をいう(以下同じ)。
※ 処分とは、補助金の交付目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、廃棄し又は担保に供することをいう。
- ⑧ 補助事業に係る資料(申請書類、SII発行文書、経理に係る帳簿及び全ての証拠書類)は、補助事業の完了(廃止の承認を受けた場合を含む)の日の属する年度の終了後5年間いつでも閲覧に供せるよう保存してください。
- ⑨ SIIは、交付決定後、交付決定した事業者名、エネマネ事業者名、補助事業概要等をSIIのホームページ等で公表することがあります(個人・個人事業主を除く)。

INDEX

1章 事業概要

1 事業概要

1-1	趣旨	7
1-2	事業詳細	11
(1)	補助金名	11
(2)	事業規模	11
(3)	補助事業者	11
(4)	補助事業	11
(5)	交付要件	11
(6)	事業スキーム	13
(7)	申請の単位	13
(8)	補助対象経費	13
(9)	補助金額及び上限額	13
(10)	他の補助金との調整	15
(11)	公募期間	15
(12)	交付決定	15
(13)	事業期間	15
(14)	完了実績報告期限	15
(15)	本事業のスケジュール	16

2章 事業要件

2 事業要件

2-1	補助事業の要件	19
(1)	住棟種別に係る留意事項	19
(2)	リース事業者との共同申請について	19
(3)	補助対象経費と項目	20
(4)	補助対象となる集合住宅に導入する設備等の要件	21
(5)	水害等災害時の電源確保に配慮し、蓄電システムを導入する住戸への優遇について	23
(6)	追加設備等について	24
2-2	ZEHデベロッパーとは	31
2-3	住棟のBELS取得	31
2-4	広告媒体へのBELS掲載について	32
2-5	「エネルギー使用状況」の計測・報告について	33
(1)	分譲集合住宅	33
(2)	賃貸集合住宅	33
(3)	留意事項	33
2-6	「定期報告(アンケート)」について	34
(1)	分譲集合住宅	34
(2)	賃貸集合住宅	34
(3)	留意事項	34
2-7	補助事業に係るデータの取り扱い	35
2-8	「集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン作成」のための情報開示	35
2-9	個人情報の取得と利用について(申請者)	36
2-10	個人情報の取得と利用について(事業継承者)	37
2-11	個人情報の取得と利用について(賃貸契約居住者)	38

INDEX

3章 事業の実施

3 事業の実施

3-1	事業フロー	41
3-2	公募～交付決定	42
(1)	事業の公募	42
(2)	交付申請	42
(3)	申請実務協力者	42
(4)	審査	42
(5)	採択	42
(6)	交付決定	42
(7)	採択事業の公表	42
3-3	補助事業の開始	43
3-4	中間報告	43
3-5	補助事業の注意事項	43
3-6	補助事業の完了	43
3-7	実績報告及び確定検査(書類審査・現地調査)	44
3-8	交付額の確定及び補助金の支払い	44
3-9	取得財産の管理等	44
3-10	交付決定の取消、補助金の返還、罰則等	45
3-11	よくある質問について	45

4章 交付申請の方法

4 交付申請の方法

4-1	申請について	47
(1)	申請の流れ	47
4-2	申請書類リスト	48

1章 事業概要

1 事業概要

1-1 趣旨

「気候変動問題への対応」「エネルギー需給構造の抱える問題」という2つの視点を踏まえ、2020年10月、我が国は、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言するとともに、2021年4月、2050年カーボンニュートラルと総合的で野心的な目標として、2030年度温室効果ガスを2013年から46%削減することを目指すこと、さらに50%の高みに向けた挑戦を続けるとの新たな方針が示された。

これを受けて、2021年10月、「地球温暖化対策計画」及び「第6次エネルギー基本計画」が策定され、住宅の省エネルギー性能の向上等を図るとともに、国民が地球温暖化問題を自らの問題として捉え、ライフスタイルを不断に見直し、再生可能エネルギーの導入、省エネルギー対策、エネルギー管理の徹底に努めることを促す脱炭素型ライフスタイルへの転換を図っている。

また、「地球温暖化対策計画」において「2030年度以降新築される住宅について、ZEH基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指す」、「2030年において新築戸建住宅の6割に太陽光発電設備が設置されることを目指す」とする政策目標が設定されたことを受け、エネルギー消費の約3割を占める建築物分野での省エネ対策を加速するべく、2022年6月、「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律(令和4年法律第69号)」が公布された。

これを受けて、令和5年度においては経済産業省、国土交通省、環境省が連携し、将来の更なる普及に向けて供給を促進すべきZEH(次世代ZEH+、超高層集合住宅)、中小工務店が連携して建築するZEH(ZEHの施工経験が乏しい事業者に対する優遇)、引き続き供給を促進すべきZEH(注文住宅、建売住宅、低層・中層・高層集合住宅)の促進支援を進めていくことになった。

本公募要領は、これら補助事業のうち、家庭内の大幅な低炭素化の実現を図ることを目的とした、環境省による低層ZEH-M促進事業の公募情報をとりまとめたものである。

- ◆「地球温暖化対策計画」については、環境省のホームページをご確認ください。

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/211022.html>

- ◆「第6次エネルギー基本計画」については、経済産業省資源エネルギー庁のホームページをご確認ください。

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/

- ◆「更なるZEB・ZEH-Mの普及促進に向けたZEB・ZEH-M委員会の今後について」については、経済産業省資源エネルギー庁のホームページをご確認ください。

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/housing/index03.html

- ◆集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン

https://sii.or.jp/zeh/zeh_guideline.html

<参考> 集合住宅におけるZEHの定義と目指すべき水準(住棟単位)

		評価基準 ^{注1)}				特記事項
		ゼッチ・マンション 『ZEH-M』	ゼッチ・マンション Nearly ZEH-M	ゼッチ・マンション ZEH-M Ready	ゼッチ・マンション ZEH-M Oriented	
① 住棟または住宅用途部分(複合建築物の場合) ^{注2、3、4)}	U _A 値が全住戸でZEH基準	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め100%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め75%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め50%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減	(住棟の評価方法) ・U _A 値:全ての住戸 ・省エネ率(BEI) 共用部含む住棟全体
	目指すべき水準 ^{注5)}	・1～3階建において 目指すべき水準		・4～5階建において 目指すべき水準	・6階建以上において 目指すべき水準	(特記事項なし)

<参考> 集合住宅におけるZEHの定義と目指すべき水準(住戸単位)

	評価基準 ^{注1)}				特記事項
	『ZEH』	Nearly ZEH	ZEH Ready	ZEH Oriented	
② 住戸 ^{注2、3、4)}	・強化外皮基準 ^{注2)} ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め100%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め75%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減 ・再エネ等含め50%減	・強化外皮基準 ・省エネのみ20%減	(特記事項なし)

注1) ①住棟または住宅用途部分と②住戸のZEH評価は、独立して行うものとする。

注2) 強化外皮基準は、1～8地域の平成28年省エネルギー基準(η_{AC} 値、気密・防露性能の確保等の留意事項)を満たした上で、U_A値1・2地域:0.4W/m²K以下、3地域:0.5W/m²K以下、4～7地域:0.6W/m²K以下とする。

注3) 一次エネルギー消費量の計算は、住戸部分は住宅計算法(暖冷房、換気、給湯、照明(その他の一次エネルギー消費量は除く))、共用部は非住宅計算法(暖冷房、換気、給湯、照明、昇降機(その他の一次エネルギー消費量は除く))とする。

注4) 再生可能エネルギー等によるエネルギー供給量の対象は敷地内(オンサイト)に限定し、自家消費分に加え、売電分も対象に含める。(ただし、余剰売電分に限る)

注5) ①住棟または住宅用途部分(複合建築物の場合)では、建物高さに応じて、目指すべきZEH-Mの水準を設定している。3階建以下については、同様の高さでの戸建住宅が実態上存在すること等を踏まえ、『ZEH-M』またはNearly ZEH-Mを目指すものとしている。また、4階建以上の集合住宅の中でも、特に高さ20mを超える集合住宅(6階建等)には、建築基準法第56条(隣地斜線制限)や避雷設備設置基準等の対応が求められ、屋上面での再生可能エネルギーの導入に影響する可能性があることから、4階以上5階建以下については、ZEH-M Ready、6階建以上についてはZEH-M Orientedを目指すものとしている。

<注意> 上記は集合住宅におけるZEHの定義であり、本事業の補助要件とは異なる。





本事業では、住宅部分が1層以上3層以下の低層集合住宅で、住棟の評価がNearly ZEH-M以上となる集合住宅を公募する。

令和5年度の経済産業省、国土交通省、環境省によるZEHに対する支援一覧

経済産業省、国土交通省、環境省によるZEHに対する支援一覧

経済産業省・国土交通省・環境省は連携して、住宅の省エネ・省CO2化に取り組み、ZEHの更なる普及を目指しています。SIIではこれらのうち、**8つの補助事業を執行**しています。

：緑色のラインは相互に連携する事業を示す

省庁	役割	戸建住宅への補助事業	集合住宅への補助事業	その他の補助事業
国土交通省	中小工務店が連携して建築するZEH 	<令和5年度> LCCM住宅整備推進 等		<令和4年度補正> こどもエコすまい支援事業
		<令和5年度> 次世代ZEH+ (注文住宅) 実証事業 ※次世代ZEH+ (HEMS)実証事業を含む <令和5年度> TPOモデルを活用した次世代ZEH+ 実証事業 <令和5年度> 次世代ZEH+ (建売住宅) 実証事業	<令和5年度> 超高層ZEH-M 実証事業	<令和4年度補正> 高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金 <令和4年度補正> 住宅の断熱性能向上のための先進的設備導入促進事業等(先進的窓リノベ事業)
経済産業省	将来の更なる普及に向けて供給を促進すべきZEH 	<令和4年度・令和5年度> 戸建住宅ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)化等支援事業	<令和4年度・令和5年度> 本公募要領に掲載する事業 集合住宅の省CO2化促進事業のうち低層ZEH-M促進事業 (以下「低層ZEH-M促進事業」) <令和5年度> 集合住宅の省CO2化促進事業のうち高層ZEH-M支援事業 (以下「高層ZEH-M支援事業」) <令和5年度> 集合住宅の省CO2化促進事業のうち中層ZEH-M支援事業 (以下「中層ZEH-M支援事業」)	<令和4年度補正> 脱炭素化産業成長促進対策費補助金(断熱窓への改修促進等による家庭部門の省エネ・省CO2加速化支援事業)
環境省	引き続き供給を促進すべきZEH、ZEH+ 脱炭素化及び災害時のレジリエンス強化 	SIIが執行する補助事業 		

1-2 事業詳細

(1) 補助金名

令和5年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
 (集合住宅の省CO2化促進事業)のうち低層ZEH-M(ゼッチ・マンション)促進事業
 略称: 令和5年度 低層ZEH-M(ゼッチ・マンション)促進事業(以下「本事業」という。)

(2) 事業規模

事業規模 約1.5億円(予定)

	追加公募
想定採択件数*	約50件

※上記の採択件数は事業規模に鑑みた想定件数となる。申請状況により変動するため留意すること。

(3) 補助事業者

補助事業者は、個人又は日本国内で事業を営んでいる個人事業主や法人等で補助対象となる新築低層集合住宅の建築主、デベロッパー等(所有者)であり、以下①②③のいずれかに該当し、④を満たすもの。
 なお、個人事業主は、原則、青色申告者であり、税務代理権限証書の写し又は税理士・会計士等により申告内容が事実と相違ないことの証明(任意書式)又は税務署の受領印が押印された確定申告書と所得税青色申告決算書の写しを提出できること。

- ① SIIが公募・登録・公表を行うZEHデベロッパー(P31参照)に登録されている。
- ② 個人又は宅地建物取引業免許を有する不動産業以外の法人であり、ZEHデベロッパーに補助対象建築物の建築を発注する計画を有する建築主。
- ③ 不動産業を業とする法人で、ZEHデベロッパーに補助対象建築物の建築を発注する計画を有する建築主であり、本事業(本事業の過去事業にあたる事業を含む)への累積申請住戸数が25戸以下であるもの。
- ④ 政府が推進する新しい国民運動「デコ活」の趣旨に賛同し、「デコ活宣言」あるいは「デコ活応援団」への参画、もしくは両方を行っていること。

(4) 補助事業

ZEH-Mの定義を満たし、かつZEH-Mの構成要素となる高性能建材や高性能設備等を導入する低層集合住宅※を新築する事業。

なお、住宅の敷地が、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」第9条第1項の規定に基づく「土砂災害特別警戒区域」に掛かっていないこと。

※住宅用途部分が1層以上3層以下で、かつNearly ZEH-M以上を満たす集合住宅を指す。

ただし、住宅用途部分の占める面積が半分未満となる階層は階数に算入しない。

なお、申請は建築物全体とし原則、部分申請はできない。

(5) 交付要件

以下の要件を全て満たすこと。

- ① 住棟を構成する複数の住戸のうち、1つ以上の住戸が分譲又は賃貸に供されること。
 また、原則、広く一般の消費者を対象とした集合住宅であること。
- ② SIIの登録を受けた「ZEHデベロッパー」による事業(又は係る事業)であることを必須とする。
 令和4年度以前にSIIの登録を受けたZEHデベロッパーは、「令和4年度ZEHデベロッパー実績報告書」をZEHデベロッパー実績報告期間内に提出していることが要件となる。

- ③ 補助対象建築物の住宅用途部分に関する住棟の評価として、交付申請時に示した性能値以上が記載された建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(平成27年法律第53号(以下「建築物省エネ法」という。))第7条に基づく省エネ性能表示(BELS等、第三者認証を受けているものに限る。以下「BELS」という。))により、補助対象建築物について、住棟の評価として『ZEH-M』、Nearly ZEH-MのうちいずれかのBELSを、本年度の中間報告時までに取り得ること。
(エネルギー計算は「建築物エネルギー消費性能基準等」*による計算とする)
*建築物省エネ法に基づく建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令(平成28年度経済産業省・国土交通省令第1号)のこと。
- ④ 全住戸のBELSを中間報告時までに取り得ること(ZEHランク不問)。
- ⑤ 分譲、賃貸を問わず、補助対象物件の入居者募集広告等においては、BELSラベルを明示し、一般消費者に対して入居者を募集すること。(P32参照)
- ⑥ 補助対象建築物の住宅用途にかかる部分(全住戸及び住宅用途にかかる共用部)全てのエネルギー使用状況(エネルギー購入量・創エネルギー量・エネルギー消費量等)を計測・記録・一括報告できる体制を有し、SIIの定める期日までに必ず提出すること。
- ⑦ 分譲集合住宅においては、補助事業完了ののち「過半の住戸が入居を終えた後の4月1日又は10月1日のうち早い日から2年間、エネルギー使用状況の計測・記録・一括報告及び定期報告(アンケート)をSIIに提出しなければならない旨」を、住宅専有部の不動産売買契約に付随する重要事項説明書類に明示すること。
住宅にかかる共用部については、「引渡しから2年間、共用部のエネルギー使用状況報告をSIIに提出しなければならない旨」を管理組合等に所有権を譲渡する際に締結する不動産売買契約に付随する重要事項説明書類に明示すること。(P33～P34参照)

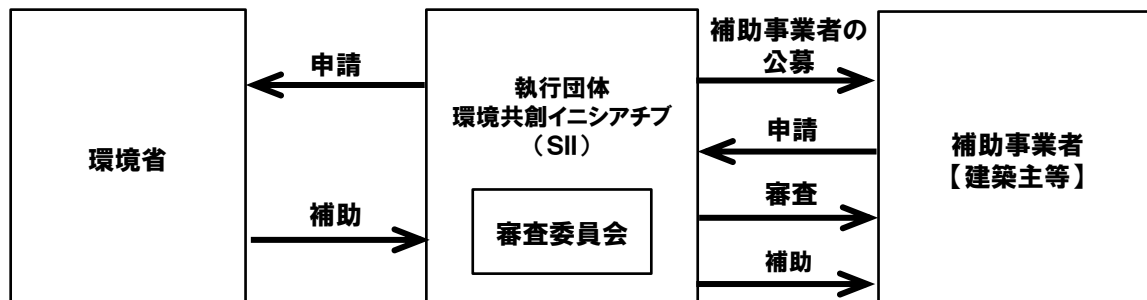
賃貸集合住宅においては、補助対象建築物の工事引渡し受領後、補助対象建築物の住宅用途にかかる部分全てのエネルギー使用状況の計測・記録・一括報告及び定期報告(アンケート)を2年間、補助事業者がSIIに報告すること。(P33～P34参照)

また、「本事業のエネルギー使用状況の報告対象物件である旨」を賃貸借契約に付随する重要事項説明書類に明示し、入居者の同意を得ること。

- ⑧ 8地域においては主に夏期の冷房負荷軽減のため、以下要件A)～C)のいずれか1つ以上を採用し、その技術の概要及び、定性・定量的効果を説明する資料を提出すること。
なお、以下要件A)～C)のうち、複数の手法を導入した場合、組合せによっては個々の効果が軽減される可能性もあるので注意すること。
また、植栽など外構計画(屋上緑化、壁面緑化)による冷房負荷軽減策を行う場合も以下要件A)～C)のいずれかを導入した上で行うこと。
- A) 通風の積極利用
建設地の風の特性や設置高低差を考慮した開口部配置、通風勝手口、欄間付き建具、格子戸など屋外の自然風を効果的に取り込み、住戸内の通風を促進する設計手法を取り入れること。
- B) 効果的な日射遮蔽
庇や外付けルーバーによる日除け、日射反射、通気層の設置などによる日射遮蔽効果を促進する設計手法を取り入れること。
- C) 最上階の屋上断熱強化
屋根断熱又は最上階の天井断熱により、屋上面からの貫流熱の軽減を図る設計手法を取り入れること。
- ⑨ 集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン作成並びにZEH-Mの普及拡大のため、補助対象建築物となるZEH-Mに資する設計情報を開示することについて承諾していること。
- ⑩ 申請者は、補助事業の遂行能力(社会的信用、資力、執行体制等が整い、事業の継続性が担保されていること)を有すること。
- ⑪ 環境省からの補助金等停止措置又は指名停止措置が講じられていない者の申請による事業であること。
また、補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合(契約金額100万円未満のものを除く)にあたっては、環境省からの補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている事業者を相手方とすることはできないので注意すること。(https://www.env.go.jp/kanbo/chotatsu/post_26.html)
その他、公的資金の交付先として社会通念上適切と認められない申請者からの申請は対象外とする。

(6) 事業スキーム

本事業の運営は以下のスキームによる。



(7) 申請の単位

本事業の申請は住棟単位とし、かつBELSの住棟評価における評価書ごととする。

(8) 補助対象経費

補助事業に必要なZEH-Mに資する以下の費用の詳細は、**2-1**(3)補助対象経費と項目を確認(P20参照)。

- ・設計費：BELS取得費用、エネルギー計算に要する費用
- ・設備費：高性能断熱材や設備機器(空調、給湯、換気、蓄電システム等)の費用
- ・工事費：補助対象設備の導入に不可欠な工事費

(9) 補助金額及び上限額

① 補助対象となる集合住宅

対象		補助金額 / 戸	備考
交付要件を満たした低層集合住宅の各住戸		定額 40万円	地域区分・建物規模・評価基準によらず全国一律
内訳	BELSの取得費用	5万円	
	高性能断熱外皮(断熱材、窓)	15万円	
	高性能設備	20万円	

② 追加補助対象となる設備等

要件を満たす設備等を導入する場合は上記①定額40万円に以下の補助金額を加算する。なお、設備等の要件はP24～P30を参照すること。

1) 蓄電システム

補助対象となる住戸に蓄電システムを導入する場合は、以下i)、ii)、iii)のうち、いずれか低い金額を補助金額とする。

- 初期実効容量※1kWhあたり2万円
- 蓄電システムの補助対象経費の1/3（蓄電システムの工事費は、補助対象外）
- 補助額上限 20万円/戸（住戸ごとに算出）

なお、水害等災害時の電源確保に配慮した蓄電システム(4kWh以上に限る)を導入する住戸への優遇として、i)、ii)、iii)のうち、いずれか低い補助金額に4万円/戸を加算する。

また、蓄電システムの補助額上限は24万円/戸とする。(P23参照)

※JEM規格で定義された初期実効容量のうち、計算値と計測値のいずれか低い方を適用し、補助額を算出する。また、補助額計算上は初期実効容量の小数点第二位以下は切り捨てとし、算出された補助金の額に1,000円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てとする。
なお、工事費は対象外。

2) 直交集成板(以下「CLT」という。)

1㎡あたり10万円(地域区分・建物規模によらず全国一律)

CLTの補助額上限:1棟あたり1,500万円

3) 地中熱ヒートポンプ・システム

定額90万円/戸(クローズドループ・オープンループによらず一律)

4) PVTシステム(太陽光発電パネルと太陽熱集熱器が一体となったもの)

パネル面積	液 体 式		空 気 式
	5㎡以上 8㎡未満	8㎡以上	22㎡以上
補助金額	65万円	80万円	90万円

5) 液体集熱式太陽熱利用システム

パネル面積	4㎡以上 6㎡未満	6㎡以上
補助金額	12万円	15万円

6) V2H充電設備(充放電設備)

補助対象となる集合住宅にV2H充電設備(充放電設備)を導入する場合は、以下i)、ii)、iii)のうち、いずれか低い金額を補助金額とする。

ただし、算出された補助金の額に1,000円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てとする。

i) 見積明細により算出する補助対象経費(設備費※)の1/3

※V2H充電設備(充放電設備)の工事費は、補助対象外

ii) 「令和4年度 クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」又は「令和5年度 クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」において公表・登録されているV2H充電設備(充放電設備)の「センター承認本体価格」の1/3。なお、センター承認本体価格は各メーカーが定める販売価格とは異なるため注意すること。

iii) 補助額上限80万円/台

7) EV充電設備

補助対象となる集合住宅にEV充電設備を導入する場合は、以下i)、ii)、iii)のうち、いずれか低い金額を補助金額とする。

ただし、算出された補助金の額に1,000円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てとする。

i) 見積明細により算出する補助対象経費(設備費※)の1/3

※EV充電設備の工事費は、補助対象外

ii) 「令和3年度補正 クリーンエネルギー自動車・インフラ導入促進補助金」、「令和4年度補正 クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」又は「令和5年度 クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」において公表・登録されているEV充電設備の「センター承認本体価格」の1/3。なお、センター承認本体価格は各メーカーが定める販売価格とは異なるため注意すること。ただし、センター承認本体価格が公表されていない場合は、同事業の補助金交付上限金額(基礎)をii)の額とする。

iii) 補助額上限80万円/台

③ 補助額の上限

補助額の上限 : 3億円

※ただし、事業規模の範囲内での採択となる。

(10)他の補助金との調整

- ① 補助対象経費には、国からの他の補助金(負担金、利子補給金並びに補助金適正化法第2条第4項第1号に掲げる給付金及び同項第2号に掲げる資金を含む)と重複する補助対象費用が含まれていないこと。
- ② 他の補助事業に申請する予定又は既に他の補助金等の交付を受けている場合は、その補助事業名及び補助対象設備等について、申請時に必ず記入すること。
- ③ 国からの他の補助金を重複受給した場合は、不正行為とみなし、当該補助金に係る交付決定の取り消しを行うとともに、受領済の補助金のうち取り消し対象となった額に加算金(年10.95%の利率)を加えた額を返還することとなる。

(11)公募期間

SIIは、以下の公募期間を定め、先着順に公募を受け付ける。

公募期間：2024年 1月 31日(水) 10時 ～ 2024年 3月 8日(金) 17時まで

申請の受付は、公募期間内の平日(月曜～金曜)のみ行い、毎日17時に締めた上、締め時間以降の申請は翌日申請として受付ける。

公募期間中に申請金額の合計が予算に達した際は、その当該日(17時締切)に受領した不備・不足のない申請を対象として抽選を行い、受付対象を決定する。

抽選結果は、申請受理日から1週間以内に申請者(申請実務協力者がいる事業は申請実務協力者)に通知する。なお、申請金額の合計が予算に達した日の17時より後の申請は原則受理しないので注意すること。

※申請書類に不備・不足がある場合は、原則申請を受理しない。

(12)交付決定

申請受理日から約3週間後に都度交付決定を行う。

ただし、申請が集中した場合や、申請内容に関するSIIからの問い合わせへの回答に時間を要した場合等は、その限りではない。

なお、最終交付決定日は2024年 3月 29日(金)とする。

(13)事業期間

単年度事業のみとする。(以下の事業期間内に事業を完了できること)

事業期間：交付決定日～2024年 10月 31日(木)まで

(14)完了実績報告期限

事業完了日から30日以内又は以下のいずれか早い日の17時までにSIIへ報告。

2024年 11月 29日(金) 17時SII提出

なお上記提出期限は、書類に不備や不足が一切ない場合の提出期限であり、早めの提出を心がけること。

(15) 本事業のスケジュール

	2024年												2025年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
低層ZEH-M 追加公募		公募期間：2024/1/31（水）～ 2024/3/8（金）													
			○ 最終交付決定 2024/3/29（金）												
			事業期間：交付決定日～2024/10/31（木）												
											完了実績報告 提出期限 2024/11/29（金）				
											○ 全件補助金 支払い完了（予定）				

※スケジュールは変更となることがあるので必ずSIIのホームページを確認すること。

2章 事業要件

2 事業要件

2-1 補助事業の要件

(1) 住棟種別に係る留意事項

住棟種別	留意事項
分譲	<ul style="list-style-type: none"> デベロッパーなどの事業主体が補助金の交付を受ける場合、管理組合が組織された後、共用部について速やかに補助事業を管理組合に承継する手続きを行うとともに、専有部については別途承継の手続きをSIIに対して行うこと。 その際、住宅用途にかかる共用部に付随する補助対象設備は原則共用設備として管理組合に譲渡し、エネルギー消費の実績報告や取得財産等の適正管理など、補助事業者と同様の義務を負うことを確認する書類(契約書等)の提示ができること。 区分所有建物の場合、申請時に区分所有者及び議決権の各5分の4以上の賛成(建替え決議の成立)により、「建物の区分所有等に関する法律」に規定される管理者もしくは管理組合法人が代表して申請できるものとする。ただし、規約と事業に関する集会の決議を提出する。
賃貸	<ul style="list-style-type: none"> 建物と設備の所有者とする。所有者が複数の場合は原則、全員の共同申請とするが、代表者を定めること。
共通	<ul style="list-style-type: none"> 確定検査時に登記を確認する。 複数の申請者にて共同申請を行う場合は、各申請者間の連携を図り補助事業が円滑に推進できること。 建築物が証券化されている場合は、受託者、受益者双方の共同申請とすること。(事業スキームの事前確認が必要になるので、申請前にSIIへ相談すること。)

(2) リース事業者との共同申請について

- ① リース事業者との共同申請が可能な設備
補助対象設備のうち蓄電システム、PVTシステム、液体集熱式太陽熱利用システム、V2H充電設備(充放電設備)、EV充電設備については、リース契約を認める。ただし、リース契約内容等により対象とならない場合があるので、SIIに事前に相談すること。
- ② 申請方法について
補助対象建築物の建築主とリース事業者による共同申請とすること。
- ③ 注意事項
 - 1) リース料(元金)は、補助金相当分が減額されていること。
 - 2) リース期間は、原則法定耐用年数以上とすること。

(3) 補助対象経費と項目

1) 補助対象経費の区分は、以下のとおりとする。

区分	内容	項目
設計費	省エネルギー性能の表示に係る経費	・BELS取得費用(住棟評価書、全住戸の住戸評価書)
設備費 ・ 工事費	ZEH-Mの構成要素となる高性能建材や高性能設備等の購入費用及び工事に要する経費	・高性能断熱材、空調設備、給湯設備、換気設備 ・補助対象建築物に導入する専有部に導入する蓄電システム※

※蓄電システムは設備費のみ補助対象とする。

2) 追加補助設備等の区分は、以下のとおりとする。

区分	内容	項目
設備費 ・ 工事費	補助対象建築物の低炭素化に資する素材、電気自動車の充電設備等又は先進的再エネ熱利用設備の購入費用及び工事に要する経費	・CLT、地中熱ヒートポンプ・システム、PVTシステム、液体集熱式太陽熱利用システム、V2H充電設備(充放電設備)※、EV充電設備※

※V2H充電設備(充放電設備)、EV充電設備は設備費のみ補助対象とする。

(4) 補助対象となる集合住宅に導入する設備等の要件

補助対象となる設備等の要件は以下のとおりとする。補助対象設備を複数台導入する場合は、全ての設備において要件・仕様を満たすこと。

なお、補助対象設備等は新品を導入すること。また、住宅の元請会社以外に補助事業者が分離発注する場合は、交付決定後に購入したものに限る。

- : 本事業で導入を必須とすること
- : 補助対象として導入する場合は、要件を満たすこと
- 該: 本事業で導入した場合は、補助対象となるもの

設備等の種類		必須要件	補助対象	要件となる基準										
BELS取得		●	該	<ul style="list-style-type: none"> ・取得する住棟BELSは、<u>Nearly ZEH-M</u>以上であること。 ・住戸の省エネ性能評価取得費用も補助対象とする。 										
高断熱外皮 <small>断熱材及び窓・ガラス等の開口 (遮熱、断熱塗料、開口部材のうちシャッター、 面格子窓手摺、玄関ドア等は補助対象外)</small>		●	該	地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8		
				外皮平均熱貫流率 (U_A 値)	0.40以下		0.50 以下	0.60以下				—		
				地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8		
				冷房期の平均日射 熱取得率(η_{AC} 値)	基準値なし					3.0 以下	2.8 以下	2.7 以下	6.7 以下	
空調設備 暖房 冷房 設備 暖房 設備	高効率個別エアコン (マルチエアコンも可)	●	該	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる居室にはエネルギー消費性能計算プログラム(Webプログラム)において計算できる暖房設備及び冷房設備を導入を必須とすること。 ・ただし、1・2地域の「冷房」、8地域の「暖房」に限り、「設置しない」という申請を認める。 ・高効率個別エアコンは、室内機、室外機及び、その据付け工事費のみ補助対象とする。 ・温水床暖房、ヒートポンプ式セントラル空調システムは、専用熱源機及び、その据付け工事費のみ補助対象とする。 ・設置が要件となる地域は、一次エネルギーの計算の「暖房設備・冷房設備」において「設置しない」という選択はできない。 										
	ダクト式セントラル 空調機													
	温水暖房 パネルラジエーター													
	温水床暖房													
給湯設備	電気ヒートポンプ 給湯機 (エコキュート等)	●	該	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費性能計算プログラム(Webプログラム)において計算出できるいずれかの左記設備を導入すること。 ・熱源機、貯湯タンク及び、その据付け工事費のみ補助対象とする。 ※ ガス(石油)従来型給湯機、ガス(石油)従来型給湯温水暖房機の導入は認めない。 										
	ガス潜熱回収型 給湯機 (エコジョーズ等)													
	石油潜熱回収型 給湯機 (エコフィール等)													
	電気ヒートポンプ・ガス 瞬間式併用型給湯機 (ハイブリッド給湯機)													
	太陽熱利用システム													
	燃料電池 (エネファーム等)	—												
省エネルギー設備	換気設備(24時間換気に 係るもの)	●	該	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費性能計算プログラム(Webプログラム)において計算できるいずれかの左記設備を導入すること。 ・換気装置(本体)及び、その据付け工事費のみ補助対象とする。 										
	照明設備	LED照明	—	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費性能計算プログラム(Webプログラム)において計算できるいずれかの左記設備を導入すること。 										
		蛍光灯	—											
再生可能エネルギーシステム	太陽光発電システム等	●	—	—										

設備等の種類	必須要件	補助対象	要件となる基準
蓄電システム	○	該	<p>以下の全てを満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、SIIに製品登録された蓄電システムであること。 なお「令和4年度 ZEH支援事業」に製品登録された蓄電システムも補助対象とする。 ・蓄電システムの導入価格(機器費+据付設置工事費)が、蓄電容量1kWhあたり14.1万円以下の蓄電システムであること。 ・太陽光発電の送電が配分されている住宅に限る。 ・蓄電システムの「導入目的」と「接続及び運用の要件」を満たすものであること。 <p>※太陽光発電等の電力変換装置が蓄電システムの電力変換装置と一体型の蓄電システム(以下「ハイブリッド」という。)の場合、目標価格との比較においてハイブリッド部分に係る経費分を控除することができる。ハイブリッド部分に係る経費を切り分けられない場合、当該電力変換装置の定格出力(系統側)1kWあたり2万円を控除することができる。(定格出力の小数点第二位以下は切り捨てる)</p> <p><導入目的> 再生可能エネルギー・システムにより発電された電力の自家消費量を増加させる目的で導入される機器であること。</p> <p><接続及び運用の要件> 再生可能エネルギーの自家消費量を増加させるために、当該再生可能エネルギーを効果的に蓄電できるもの。(非常用の電力確保を目的として限定的に再生可能エネルギーを蓄電するものは対象外)</p>
V2H充電設備(充放電設備)	○	該	<p>以下の全てを満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の補助対象集合住宅に導入される充電設備であること。 ・再生可能エネルギーの自家消費量を増加させるために、当該再生可能エネルギーを効果的に電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)に充電し、かつ、補助対象集合住宅に供給することが可能であること。 ・一般社団法人 次世代自動車振興センターが執行する「令和4年度 クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」に登録されている機器又は「令和5年度 クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」で今後、登録を予定している機器のうち、ECHONET Lite規格の認証登録番号を取得しているもの。 ※ 一般社団法人 次世代自動車振興センターのWebページ(http://www.cev-pc.or.jp/)に記載されている補助対象充電設備一覧並びにエコーネットコンソーシアムのWebページ(https://echonet.jp/product/echonet-lite/)の最新情報を参照すること。 ・据付け設置できる機器であること。
EV充電設備	○	該	<p>以下の全てを満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の補助対象集合住宅に導入される充電設備であること。 ・再生可能エネルギーの自家消費量を増加させるために、当該再生可能エネルギーを効果的に電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)に充電することが可能であること。 ・一般社団法人 次世代自動車振興センターが執行する「令和3年度補正 クリーンエネルギー自動車・インフラ導入促進補助金」に登録されている機器、「令和4年度補正 クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」又は「令和5年度 クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」で今後、登録を予定している機器であること。 ※ 一般社団法人 次世代自動車振興センターのWebページ(http://www.cev-pc.or.jp/)に記載されている補助対象充電設備一覧の最新情報を参照すること。 ・据付け設置できる機器であること。

8地域における交付要件に示す要素を導入する際の補助対象となる設備等

- ① 通風の積極利用に資するもの(開口部、欄間付建具、格子戸、通風制御システムなど)
- ② 効果的な日射遮蔽に資するもの(外付けルーバー等。なお庇、オーニング、テント、屋内ブラインド、カーテン類は補助対象外)

(5) 水害等災害時の電源確保に配慮し、蓄電システムを導入する住戸への優遇について

冠水・浸水などの水害リスク(以下「水害リスク」という。)の恐れがある位置に電気設備や機械設備を設置すると、災害時に電力確保ができない恐れがある。

本事業では、蓄電システムの据付設置場所について、「水害等の災害時における電力確保に一定の配慮がなされた計画」とみなすことができるものについて、蓄電システムの補助金を4万円/戸を加算する。

- ① 1住戸に複数の蓄電システムを導入する事業であっても本優遇による補助金の加算は1住戸4万円なので注意すること。
- ② 屋外(屋側を含む)に設置する蓄電システムの水害リスク回避のための架台(転倒防止策がとられたものに限る)の設置による措置に、地上2階以上の階層の住戸用蓄電システムの水害リスク回避が含まれる場合は、地上2階以上の階層の住戸用蓄電システムも本優遇措置の対象とする。
- ③ 水害リスクのない階層に導入する蓄電システムは本優遇の対象外なので注意すること。
- ④ 対象とする蓄電システムを本優遇の対象とする場合は、地方公共団体等が公表する水害ハザードマップや過去の水害事例の記録など(客観的にその必要性を示すことができるものに限る)補足資料を添付すること。SIIは、添付された資料を基に優遇措置の対象であるか審査する。

<水害等の災害時における電力確保に一定の配慮がなされた蓄電システム導入計画の例>

- ① 水害リスクのある階層の住戸用蓄電システムを、水害リスクの低い上層階や屋上等に設置する計画
- ② 架台を設置し、蓄電システムのかさ上げを図る計画

(6) 追加設備等について

本事業では、補助対象住宅に以下の追加設備等を導入する場合、補助対象住宅の補助金に加算する。
 なお、追加設備等を複数台導入する場合は全ての設備において以下の設備要件を満たすこと。
 また、追加設備等は新品を導入すること。

番号	追加設備等の種類	要件となる基準
①	CLT	<ul style="list-style-type: none"> ・構造耐久力上主要な部分のうち、壁、床版、屋根版に面的に使用されていること。 ・CLTの総使用量は、延べ面積で除した単位面積あたりの当該CLTの使用量が$0.1\text{m}^3/\text{m}^2$以上であること。 ・工法は問わない。ただし、枠組壁工法を用いて工事を行う場合は、「枠組工法又は木質プレハブ法を用いた建築物又は建築物の構造部分の構造方法に関する安全上必要な技術的基準を定める件(国土交通省告示第1540号、平成29年9月26日公布・施行)」に準拠すること。
②	地中熱ヒートポンプ・システム	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象となる設備項目ごとの機器要件を満たしていること。(P26表1参照) ・地中熱ヒートポンプ熱源機の補助要件を満たしていることを定量的に示せること。 ・原則、日本国内で市場流通されている製品であること。 ・ポーリング着工写真を提出できること。
③	PVTシステム (太陽光発電パネルと太陽熱集熱器が一体となったもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象となる設備項目ごとの機器要件を満たしていること。(P29表2参照) ・原則、日本国内で市場流通されている製品であること。
④	液体集熱式太陽熱利用システム	<ul style="list-style-type: none"> ・循環方式は、強制循環に限る。 ・補助対象となる設備項目ごとの機器要件を満たしていること。(P30表3参照) ・原則、日本国内で市場流通されている製品であること。

① CLT

補助対象となるCLTは、以下の要件を満たすこと。

国内製品においては、JAS認定工場で製造された JAS製品であること。

補助対象住宅への 導入箇所	補助対象住宅における 使用量	施工方法
<p>構造耐久力上主要な部分のうち、壁、床版 又は屋根版に面的に使用されていること。</p>	<p>・CLT総使用量は、延べ面積で除した 単位面積あたりの当該CLTの使用量が 0.1 m³/m²以上であること。 なお、CLTの導入に際しては、仕上材 の一部又は化粧材や柱等への使用の 場合は、補助対象とならないので注意 すること。</p>	<p>・工法は問わない。 ただし、枠組壁工法を用いて工事を行う 場合は、「枠組壁工法又は木質プレハ ブ工法を用いた建築物又は建築物の 構造部分の構造方法に関する安全上 必要な技術的基準を定める件(国土交 通省告示第1540号、平成29年9月26 日公布・施行)」に準拠すること。</p>

② 地中熱ヒートポンプ・システム

補助対象となる地中熱ヒートポンプ・システムは、以下の要件を満たすこと。

1. 表1に記載する要件を全て満たすこと。
2. 地中熱ヒートポンプ熱源機の補助要件を満たしていることを定量的に示せること。
3. 原則、日本国内で市場流通されている製品であること。
4. 中間報告時にボーリング着工写真を提出できること。

■表1

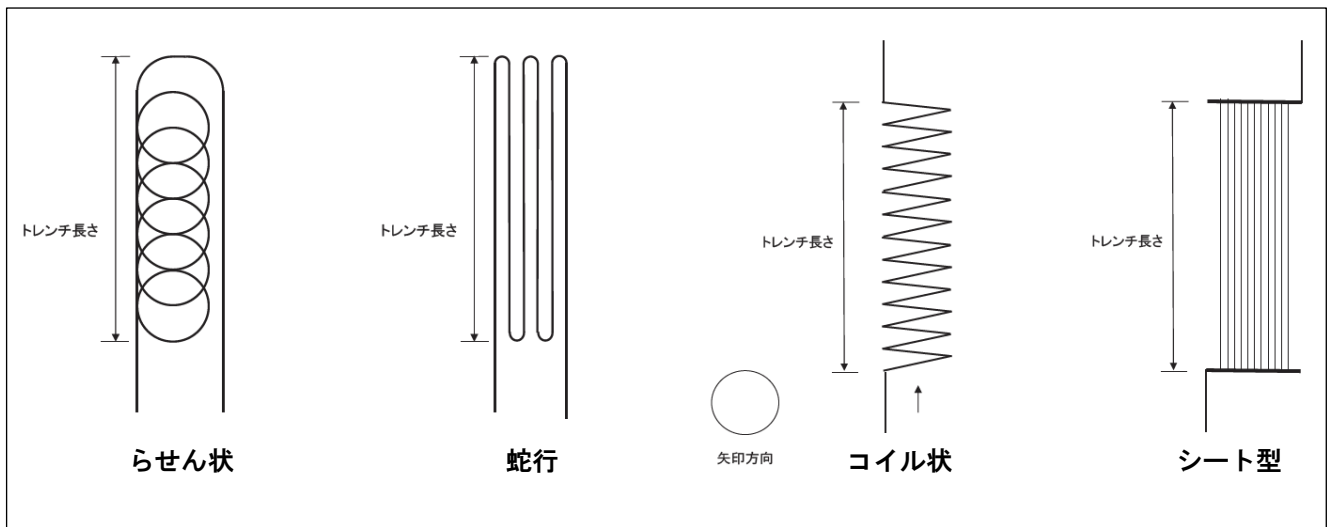
区分	対象範囲	補助要件		
工法	クローズドループ 垂直埋設型	採熱深度が30m以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ・「クローズドループ垂直埋設型の採熱工法一覧」(P27、図1参照)のいずれかの工法であること。 ・地中熱交換器の総長が30m以上であること。 (Uチューブの場合は行き帰りを一体で測定) 	
	クローズドループ 水平埋設型		「クローズドループ水平埋設型の採熱工法一覧」(P27、図2参照)のいずれかの工法であること。	<ul style="list-style-type: none"> ・「クローズドループ水平埋設型の採熱工法一覧」(P27、図2参照)で示す「らせん状」、「蛇行」、「コイル状」の採熱工法を採用する場合、地中熱交換器に用いるパイプの総長は150m以上であること。 ・「クローズドループ水平埋設型の採熱工法一覧」(P27、図2参照)で示す「シート型」の採熱工法を採用する場合、施設面積は30㎡以上であること。
	オープンループ 放流型	揚水深度が50m以上であること。	—	
	オープンループ 還元井型		<ul style="list-style-type: none"> ・還元深度が50m以上であること。 	
	オープンループ 浸透枘型		—	
設備機器	地中熱ヒートポンプ熱源機	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房時COP3.7以上であること。 		
	附随設備	<ul style="list-style-type: none"> ・システムを構成するタンク及びポンプ類、熱交換器、井水槽等。 (オープンループの採熱工法一覧(P28、図3参照)により必要な場合) 		
	放熱機器等	<ul style="list-style-type: none"> ・システムを構成する床暖房、パネルラジエーター、ファンコイルユニット等。 		
工事費	工事費	<ul style="list-style-type: none"> ・システムに係る機器全ての設置費用及び、配管、断熱等の工事費用。 		

■ 図1 クローズドループ垂直埋設型の採熱工法一覧

工法 名称	ポアホール工法			杭工法			
	シングルUチューブ	ダブルUチューブ	スパイラルチューブ	杭シングルUチューブ	杭ダブルUチューブ	二重管	既成コンクリートH杭
水平断面 (例)							
垂直断面図 (例)							
口径(mm)	・100以上	・110以上	・500以上	・100以上	・100以上	・60以上	・200×200以上
杭材種(例)	—	—	—	・既成コンクリート杭 ・鋼管	・既成コンクリート杭 ・鋼管	・既成コンクリート杭 ・鋼管 ・ステンレス管	・H型既成コンクリート杭
熱交換器(例)	・高密度ポリエチレン管	・高密度ポリエチレン管 ・架橋ポリエチレン管	・高密度ポリエチレン管	・高密度ポリエチレン管 ・ステンレス管 ・鋼管	・高密度ポリエチレン管 ・ステンレス管 ・鋼管	・杭本体 (高密度ポリエチレン管、 鋼管、ステンレス管)	・高密度ポリエチレン管 鋼管
充填材(例)	・珪砂 ・豆砂利 ・コンクリート ・セメントミルク	・珪砂 ・豆砂利 ・コンクリート ・セメントミルク	・珪砂 ・豆砂利 ・セメントミルク	・珪砂 ・豆砂利 ・不凍液 ・水	・珪砂 ・豆砂利 ・不凍液 ・水	・不凍液 ・水	・セメントミルク
熱媒(例)	・水 ・不凍液	・水 ・不凍液	・水 ・不凍液	・水 ・不凍液 ・冷媒	・水 ・不凍液 ・冷媒	・水 ・不凍液	・水 ・不凍液
備考		・複数(ダブル以上)の Uチューブを挿入した ものを含む。			・複数(ダブル以上)の Uチューブを挿入した ものを含む。		

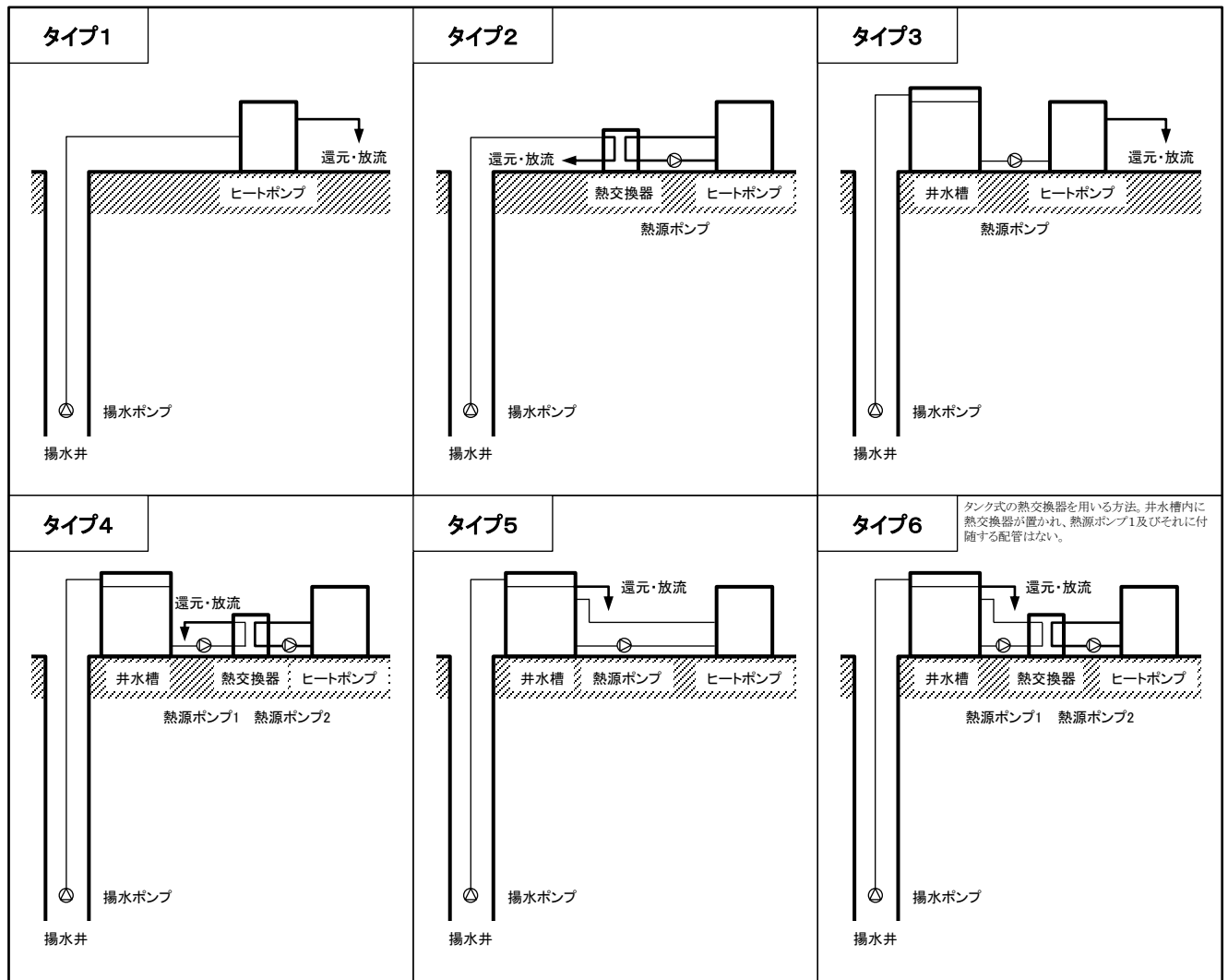
出典： 特定非営利法人 地中熱利用促進協会作成の「垂直埋設型の採熱工法の一覧」より抜粋

■ 図2 クローズドループ水平埋設型の採熱工法一覧



出典： 国土交通省国土技術政策総合研究所 国立研究開発法人建築研究所 「平成28年度 省エネルギー基準 (非住宅建築物) 地中熱ヒートポンプ・システムの熱源水温度計算方法」 P4 「図3 クローズドループ 水平埋設型の4方式」より抜粋

■図3 オープンループの採熱工法一覧



出典： 特定非営利法人 地中熱利用促進協作成の「オープンループ採熱工法の一覧」より抜粋

③ PVTシステム(太陽光発電パネルと太陽熱集熱器が一体となったもの)

補助対象となるPVTシステムは、以下の要件を満たすこと。

1. 表2に示す「補助対象となる設備項目」ごとの補助要件を全て満たすこと。
(PVTシステムに当該設備が含まれない項目は、この限りでない)
2. 原則、日本国内で市場流通されている製品であること。

■表2 PVTシステムの機器要件

区分	補助対象となる設備項目		補助要件
空気集熱式	太陽光発電機能付き集熱器 (PVT) ※1		<ul style="list-style-type: none"> ・日集熱効率10%以上であること。 ※2 ・設置するPVTパネル面積が22㎡以上あること。
	付帯設備・部材費 ※3	エアークハンドリングユニット (集熱用送風機、ダンパー、熱交換器等)	・集熱空気を搬送し、集熱空気を活用するための風路切り替えダンパーを備えたもの。
		集熱空気用ダクト・配管	—
		蓄熱槽 (貯湯タンク、ポンプ、集熱制御機器、計測・表示機器等)	・JIS A 4113に規定する太陽蓄熱槽と同等以上の性能を有することが確認できること。
		システムを構成する室内側の放熱器	—
		システムと一体の補助熱源設備	—
		その他PVTシステムに必要な付属部材	—
	工事費		・補助対象となるPVT、付帯設備、部材の設置に係る工事費用。
液体集熱式	太陽光発電機能付き集熱器 (PVT) ※1		<ul style="list-style-type: none"> ・日集熱効率10%以上であること。 ※2 ・設置するPVTパネル面積が5㎡以上あること。
	付帯設備・部材費 ※3	熱媒配管 (配管、継手、バルブ等)	—
		蓄熱槽 (貯湯タンク、ポンプ、集熱制御機器、計測・表示機器等)	・JIS A 4113に規定する太陽蓄熱槽と同等以上の性能を有することが確認できること。
		システムを構成する室内側の放熱器	—
		システムと一体の補助熱源設備	—
		その他PVTシステムに必要な付属部材	—
	工事費		・補助対象となるPVT、付帯設備、部材の設置に係る工事費用。

※1 PVTパネルの集熱に係る部分のみを補助対象とする(発電部分、PVT以外の集熱器は補助対象外)。

※2 JIS A 4112に準拠した試験方法であること。

※3 補助対象となるPVTシステムの集熱システムに付帯するものに限る。

④ 液体集熱式太陽熱利用システム

補助対象となる液体集熱式太陽熱利用システムは、以下の要件を満たすこと。

1. 循環方式は、強制循環に限る。
2. 表3に示す「補助対象となる設備項目」ごとの補助要件を全て満たすこと。
3. 原則、日本国内で市場流通されている製品であること。
4. 補助対象設備を複数台導入する場合は全ての設備において設備要件を満たすこと。

■表3 液体集熱式太陽熱利用システムの機器要件

補助対象となる設備項目		補助要件
高効率集熱器		<ul style="list-style-type: none"> ・屋根面等に太陽光発電パネルと併設された太陽熱集熱器であること。 ・設置する集熱器の面積が4㎡以上あること。 ・日集熱効率について下記要件を満たすこと。 平板形 60%以上 真空ガラス管形 50%以上
付帯設備・部材費 (補助対象となる集熱システムに付帯するものに限る)	蓄熱槽 (貯湯タンク、ポンプ、集熱制御機器、計測・表示機器等)	・JIS A 4113に規定する太陽蓄熱槽と同等以上の性能を有することが確認できること。
	集熱配管	—
	その他付属部材	—
	補助熱源給湯器	—
工事費		・補助対象となる集熱器、付帯設備、部材の設置に係る工事費用。

2-2 ZEHデベロッパーとは

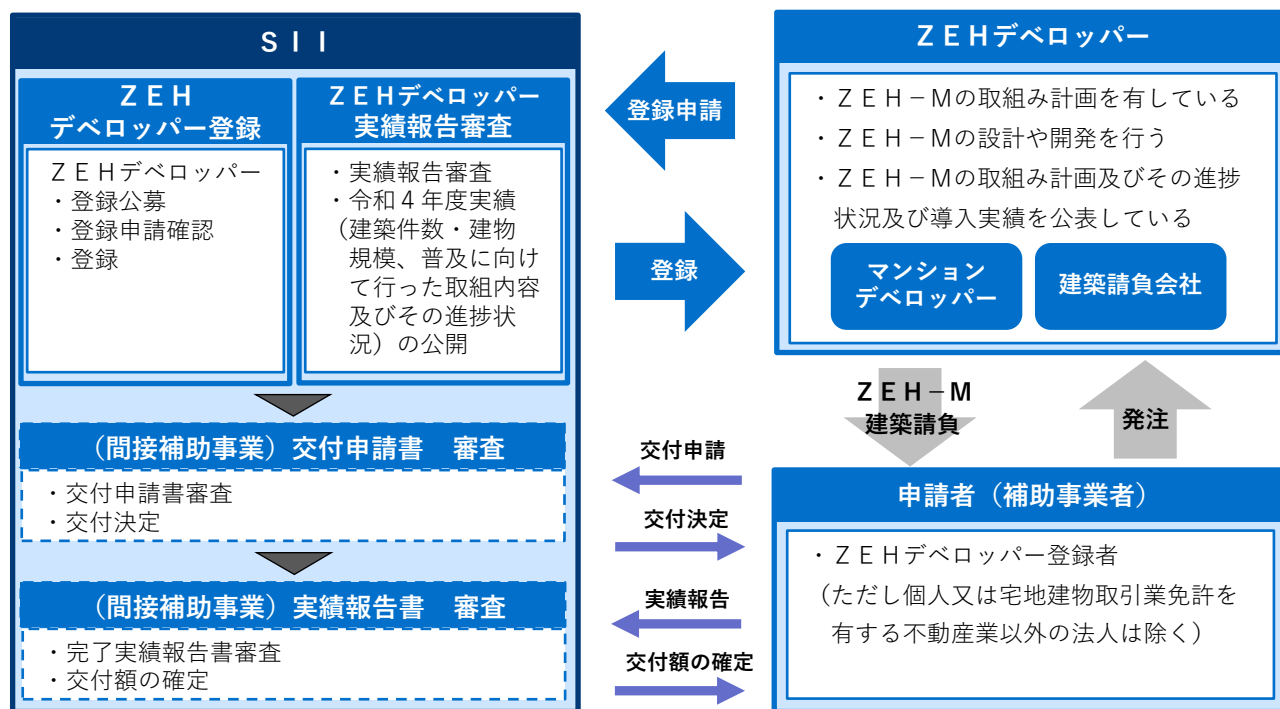
本事業の趣旨に基づき、「ZEH-M普及に向けた取り組み計画」「その進捗状況」「ZEH-M導入計画」「ZEH-M導入実績」を一般に公表し、ZEH-Mの案件形成の中心的な役割を担う建築主(マンションデベロッパー、所有者など)や建築請負会社(ゼネコン、ハウスメーカーなど建設会社)をSIIは「ZEHデベロッパー」と定め、公募する。SIIは、登録されたZEHデベロッパーをホームページで公表する。

また、本事業への申請には、SIIの登録を受けた「ZEHデベロッパー」による事業又は係る事業であること。

なお令和4年度以前にSIIの登録を受けたZEHデベロッパーは、「令和4年度ZEHデベロッパー実績報告書」をZEHデベロッパー実績報告期間内に提出していることが要件となる。

- 「ZEHデベロッパー」の公募についてはSIIホームページ並びに「ZEHデベロッパー登録公募要領」を参照すること。
SIIホームページ https://sii.or.jp/meti_zeh_m05/zeh_dev/

ZEHデベロッパーの役割と補助事業者との関係







2-3 住棟のBELS取得

住棟のBELSを取得した結果、一次エネルギー消費削減率が本事業の交付決定時の値よりも下回った場合又は本事業の要件に不適合となった場合は、補助金の交付を受けることができない場合があるので注意すること。

BELSは、原則として申請時と同じ計算方法を用いること。

2-4 広告媒体へのBELS掲載について

広告媒体へのBELSラベル掲載方法は以下参照のこと。

ZEH-Mマークの掲載媒体	①又は②のBELSラベルを掲載すること		
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不動産情報媒体への掲載 (Webサイト・住宅情報誌等) ◆ 店舗掲示物やモデルルーム内及び工事現場の仮囲い等への掲示 	①	<p>住棟BELSラベル (掲載必須)</p> 	<p>住戸BELSラベル</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ◆ その他評価すべき媒体への掲示 (新聞折込、交通広告等) ◆ 全住戸BELSの取得とその掲載 	②		

出典：一般社団法人 住宅性能評価・表示協会

(参考) パンフレットのBELSラベル使用例

2050年カーボンニュートラルに向けて新しい暮らしの提案

高断熱、高性能設備導入により
『ZEH-M』を実現

快適な室内環境を保ちつつ
大幅な省エネ性を確保

地球にやさしく、未来の子供たちのために
新しい住まいの提案

事業主[売主]
〇〇不動産株式会社

〇〇〇アパート



〇〇駅直通〇分



2-5 「エネルギー使用状況」の計測・報告について

低層ZEH-M促進事業における、エネルギー使用状況の計測・報告について、基本的な考え方を以下に示す。

(1) 分譲集合住宅

- ◆ 開始日
過半の住戸が入居後、4月1日又は10月1日のうち早い日
 - ・ 例：過半の住戸が入居したのが2025年3月1日の場合は、2025年4月1日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 計測期間
前記、開始日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 提出データ
「専有部(各戸)と共用部の月次集計値」
SIIが公開する定型様式(Excel)に、各月のエネルギー流量を入力して、1年分(12ヶ月分)をまとめて提出すること。

(2) 賃貸集合住宅

- ◆ 開始日
補助対象建築物の工事引渡し後、4月1日又は10月1日のうち早い日
 - ・ 例：補助対象建築物の工事引渡し日が2024年10月10日の場合は、2025年4月1日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 計測期間
前記、開始日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 提出データ
 - ① 「専有部(各戸)と共用部の月次集計値」
 - ・ SIIが公開する定型様式(Excel)に、各月のエネルギー流量を入力して、1年分(12ヶ月分)をまとめて提出すること。
 - ② 「HEMSやMEMSから書き出されたデータ(CSVデータやExcelデータなど)」
 - ・ HEMSやMEMSデータ報告を実施する事業として交付決定を受けた事業のみ提出すること。
データは自由書式でよい。

(3) 留意事項

- ・ 上記によらないケースについてはSIIに相談すること。
- ・ 計測・記録開始日に未入居の専有部については、その旨を記載し入居日以降、都度計測・記録を開始すること。
- ・ 補助事業者の責任において、「エネルギー使用状況の計測・報告、定期報告(アンケート)の回答を行うこと」を重要事項説明書類に明記し、期間内に回答すること。(P12、交付要件⑦参照)
- ・ **報告がなかった場合には、補助金の交付決定の取消し又は返還を求める場合があるので注意すること。**

2-6 「定期報告(アンケート)」について

低層ZEH-M促進事業における、定期報告(アンケート)について、基本的な考え方を以下に示す。

(1) 分譲集合住宅

- ◆ 開始日
新築入居後、4月1日又は10月1日のうち早い日
 - ・ 例： 新築入居が2025年3月1日の場合は、2025年4月1日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 対象期間
前記、開始日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 実施方法
SIIは事業継承者(居住者)あてにWEBアンケートの案内メールを半年ごとに計4回提出するので、事業継承者は、パソコン、タブレット、スマートフォンなどを使い期日内に必ず回答すること。

(2) 賃貸集合住宅

- ◆ 開始日
補助対象建築物の工事引渡し後、4月1日又は10月1日のうち早い日
 - ・ 例： 補助対象建築物の工事引渡しが2024年10月10日の場合は、2025年4月1日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 対象期間
前記、開始日から2年間(24ヶ月間)
- ◆ 実施方法
SIIは完了実績報告提出書類である「エネルギー計測報告実施体制図」に基づき、補助事業者又は報告担当者宛てに、WEBアンケートの案内メールを半年ごとに(計4回)アンケートの回答方法を送付するので、回答方法を確認し実施すること。

(3) 留意事項

- ・ 報告がなかった場合には、補助金の交付決定の取消し又は返還を求める場合があるので注意すること。

2-7 補助事業に係るデータの取り扱い

本事業で得られた情報は、調査・分析の対象となり、その分析結果はZEH-Mの実現と普及を目的として広く公開することについて、あらかじめ了承すること。

【参考】「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス実証事業調査結果(2023年版)」
<https://sii.or.jp/opendata/#prj6>

2-8 「集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン作成」のための情報開示

本事業は、集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン策定業務に必要な情報提供が可能な事業に対し、補助を行うものである。したがって、集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン作成のため、補助事業者から提出される以下のデータについて、使用及び公表を行うことがある。そのため正当な理由なく、これらの情報の提出がなかった場合には、交付決定の修正、取消又は補助金の返還を求めることもあるので注意すること。

なお、集合住宅におけるZEHの設計ガイドライン作成に際しては、個人情報等に配慮して、提供された情報を取り扱う予定である。

- 全景写真(又はパース図等)
- 設計一次エネルギー消費量の計算に用いた外皮・設備仕様入力シート<Excelシート>及び、計算結果(外皮性能、一次エネルギー消費量・削減率・原単位)
- 設計一次エネルギー消費量の計算結果の根拠となる建築物概要(地域区分、構造、階数、建築面積、延床面積等)
- 設計一次エネルギー消費量の計算結果の根拠となる設備概要(採用省エネルギーシステム概念図、仕様等)

※別途、省エネルギー効果検証のための取材等の協力依頼が行われることがある。

2-9 個人情報の取得と利用について(申請者)

以下に示す個人情報の取得及び提供に関する内容について同意の上、申請すること。

NO.	項目	内容
①	個人情報の取得について	SIIは本事業の実施のため、以下「②」に記載する情報を本事業の実施期間にわたり取得する。これらの取得した情報を、「③」に記載する範囲・目的で提供することに、申請者は同意するものとする。SIIの個人情報保護方針は以下を確認すること。 https://sii.or.jp/privacy/
②	取得する情報	SIIは、本事業の実施期間に以下の情報を取得する。 (ア) 氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス、財務資料、口座情報等の補助事業者情報 (イ) 建設所在地、地域区分、建築区分、工法種別、延床面積等の建築地情報 (ウ) ZEH-M種別、外皮平均熱貫流率、導入設備種別等の性能情報 (エ) 一次エネルギー消費量(基準値、設計値、実績値)、発電量、売電量、買電量等のエネルギー使用情報 (オ) その他、本事業に必要な情報
③	利用目的	SIIは「②」で取得した情報を以下の目的で利用する。 (ア) 本事業の審査、管理、事業進捗状況の把握等 (イ) SIIの各種情報案内、アンケート・調査等の実施 (ウ) その他、本事業の運営に必要な業務
④	第三者への提供について	取得した個人情報は、以下の場合及び「⑤」へ記載する提供先を除き、第三者への提供を行わない。提供が必要となる場合は、事前に提供先と提供目的、提供する項目等を明示し、補助事業者に同意いただいたものに限る。 (ア) 法令により提供を求められた場合 (イ) 人の生命・身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、同意を得ることが困難である場合 (ウ) 国の機関又は地方公共団体又はその委託先を受けたものが法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合
⑤	本事業における提供先及び利用目的、提供情報について	本事業では、別表に示す提供先、利用目的で取得情報を提供する。各提供先に本事業で取得した情報を提供する場合は、提供元と提供先で利用目的等を明示した適切な契約締結を行うか、利用規約等への同意を求める。
⑥	匿名加工情報の提供について	本事業では、SIIから直接又はSIIのホームページ等で外部の研究機関等に対して、内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築を図ること、及び住宅・建築物における脱炭素化を支援し、もって2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて脱炭素社会の構築を推進することを目的として、「②」に記載する情報を、個人が特定できないよう匿名加工を行った上で、提供する場合がある。提供時には、利用目的を確認し、個人を特定するような行為を行わないことに対して同意を取得する。SIIの匿名加工情報に関するポリシーに関しては、以下を確認すること。 https://sii.or.jp/anonymous_processing/index.html
⑦	個人情報提供の任意性	個人情報の提出がされない場合、利用目的を遂行できないことがある。
⑧	外部委託	提供された個人情報を、個人情報に関する機密保持契約を締結している業務委託会社へ、利用目的の達成に必要な範囲で委託することがある。委託会社に対しては、適切な取扱い及び保護を行う。
⑨	開示請求等について	SIIに保有している個人データ、個人情報の利用目的の通知、個人情報の開示、内容の訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止等に誠実に対応する。手続きは下記の相談窓口まで連絡すること。請求内容を確認の上、対応する。 <相談窓口> 一般社団法人 環境共創イニシアチブ 個人情報取扱管理担当 p-support@sii.or.jp

(別表) 個人情報の本事業における提供先(No. ⑧に示す外部委託先を除く)、利用目的、提供情報は以下のとおり。

	提供元	提供先	利用目的	提供情報	備考
1	SII	国	本事業の申請状況・効果分析、外皮性能・省エネ・省CO2効果等の分析、製品・サービス等の研究開発、その他省エネ・省CO2に資する調査・研究等	②(ア)の内、住所、 (イ)(ウ)(エ)(オ)	SIIから国への提供時に匿名加工は行いません。
2	SII	学校法人、行政機関、研究開発を業とする法人・研究者の内、学術・研究・調査・開発目的のみに使用することに同意したもの。 SIIのホームページで情報提供前に提供先の会社名、連絡先を取得した上で、利用目的を明示し、同意を取得した方のみ提供します。	・内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築に対する学術・研究・調査・商品/サービス開発等 ・住宅・建築物における省エネルギー化、脱炭素化を支援し、2050年カーボンニュートラル達成に向けた学術・研究・調査、商品・サービス開発等	②(ア)の内、市区町村までの住所、 (イ)(ウ)(エ)(オ)	—

2-10 個人情報の取得と利用について(事業継承者)

以下に示す個人情報の取得及び提供に係る内容について事業継承者より同意を得ること。

	項目	内容
①	個人情報の取得について	SIIは本事業の実施のため、以下「②」に記載する情報を本事業の事業承継するものから取得する。これらの取得した情報を、「③」に記載する範囲・目的で提供することに、事業継承者は同意するものとする。SIIの個人情報保護方針は以下を確認すること。 https://sii.or.jp/privacy/
②	取得する情報	SIIは、本事業の事業承継するものから以下の情報を取得する。 (ア) 氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス、世帯人数、世帯年齢構成の事業継承者情報 (イ) 発電量、売電量、買電量等のエネルギー使用情報 (ウ) その他、本事業に必要な情報
③	利用目的	SIIは「②」で取得した情報を以下の目的で利用する。 (ア) 本事業の審査、管理、事業承継進捗状況の把握等 (イ) SIIの各種情報案内、アンケート・調査等の実施 (ウ) その他、本事業の運営に必要な業務
④	第三者への提供について	取得した個人情報は、以下の場合及び「⑤」へ記載する提供先を除き、第三者への提供を行わない。提供が必要となる場合は、事前に提供先と提供目的、提供する項目等を明示し、補助事業者に同意いただいたものに限る。 (ア) 法令により提供を求められた場合 (イ) 人の生命・身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、同意を得ることが困難である場合 (ウ) 国の機関又は地方公共団体又はその委託先を受けたものが法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合
⑤	本事業における提供先及び利用目的、提供情報について	本事業では、別表に示す提供先、利用目的で取得情報を提供する。各提供先に本事業で取得した情報を提供する場合は、提供元と提供先で利用目的等を明示した適切な契約締結を行うか、利用規約等への同意を求める。
⑥	匿名加工情報の提供について	本事業では、SIIから直接又はSIIのホームページ等で外部の研究機関等に対して、内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築を図ること、及び住宅・建築物における脱炭素化を支援し、もって2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて脱炭素社会の構築を推進することを目的として、「②」に記載する情報を、個人が特定できないよう匿名加工を行った上で、提供する場合がある。提供時には、利用目的を確認し、個人を特定するような行為を行わないことに対して同意を取得する。SIIの匿名加工情報に関するポリシーに関しては、以下を確認すること。 https://sii.or.jp/anonymous_processing/index.html
⑦	個人情報提供の任意性	個人情報の提出がされない場合、利用目的を遂行できないことがある。
⑧	外部委託	提供された個人情報を、個人情報に関する機密保持契約を締結している業務委託会社へ、利用目的の達成に必要な範囲で委託することがある。委託会社に対しては、適切な取扱い及び保護を行う。
⑨	開示請求等について	SIIに保有している個人データ、個人情報の利用目的の通知、個人情報の開示、内容の訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止等に誠実に対応する。手続きは下記の相談窓口まで連絡すること。請求内容を確認の上、対応する。 <相談窓口> 一般社団法人 環境共創イニシアチブ 個人情報取扱管理担当 p-support@sii.or.jp

(別表) 個人情報の本事業における提供先(No. ⑧に示す外部委託先を除く)、利用目的、提供情報は以下のとおり。

	提供元	提供先	利用目的	提供情報	備考
1	SII	国	本事業の申請状況・効果分析、外皮性能・省エネ・省CO2効果等の分析、製品・サービス等の研究開発、その他省エネ・省CO2に資する調査・研究等	②(ア)の内、住所、 (イ)(ウ)	SIIから国への提供時に匿名加工は行いません。
2	SII	学校法人、行政機関、研究開発を業とする法人・研究者の内、学術・研究・調査・開発目的のみに使用することに同意したもの。 SIIのホームページで情報提供前に提供先の会社名、連絡先を取得した上で、利用目的を明示し、同意を取得した方のみ提供します。	・内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築に対する学術・研究・調査・商品/サービス開発等 ・住宅・建築物における省エネルギー化、脱炭素化を支援し、2050年カーボンニュートラル達成に向けた学術・研究・調査、商品・サービス開発等	②(ア)の内、市区町村までの住所、 (イ)(ウ)	—

2-11 個人情報の取得と利用について(賃貸契約居住者)

以下に示す個人情報の取得及び提供に係る内容について賃貸契約居住者(事業継承者が賃貸物件として貸し出している場合は借主も含む)より同意を得ること。

項目	内容
① 個人情報の取得について	SIIは本事業の実施のため、以下「②」に記載する情報を本事業の事業承継するものから取得する。これらの取得した情報を、「③」に記載する範囲・目的で提供することに、賃貸契約居住者は同意するものとする。SIIの個人情報保護方針は以下を確認すること。 https://sii.or.jp/privacy/
② 取得する情報	SIIは、本事業の賃貸契約居住者から以下の情報を取得する。 (ア) 世帯人数、世帯年齢構成の居住者情報 (イ) 発電量、売電量、買電量等のエネルギー使用情報 (ウ) その他、本事業に必要な情報
③ 利用目的	SIIは「②」で取得した情報を以下の目的で利用する。 (ア) アンケート・調査等の実施 (イ) その他、本事業の運営に必要な業務
④ 第三者への提供について	取得した個人情報は、以下の場合及び「⑤」へ記載する提供先を除き、第三者への提供を行わない。提供が必要となる場合は、事前に提供先と提供目的、提供する項目等を明示し、補助事業者に同意いただいたものに限る。 (ア) 法令により提供を求められた場合 (イ) 人の生命・身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、同意を得ることが困難である場合 (ウ) 国の機関又は地方公共団体又はその委託先を受けたものが法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合
⑤ 本事業における提供先及び利用目的、提供情報について	本事業では、別表に示す提供先、利用目的で取得情報を提供する。各提供先に本事業で取得した情報を提供する場合は、提供元と提供先で利用目的等を明示した適切な契約締結を行うか、利用規約等への同意を求める。
⑥ 匿名加工情報の提供について	本事業では、SIIから直接又はSIIのホームページ等で外部の研究機関等に対して、内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築を図ること、及び住宅・建築物における脱炭素化を支援し、もって2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて脱炭素社会の構築を推進することを目的として、「②」に記載する情報を、個人が特定できないよう匿名加工を行った上で、提供する場合がある。提供時には、利用目的を確認し、個人を特定するような行為を行わないことに対して同意を取得する。SIIの匿名加工情報に関するポリシーに関しては、以下を確認すること。 https://sii.or.jp/anonymous_processing/index.html
⑦ 個人情報提供の任意性	個人情報の提出がされない場合、利用目的を遂行できないことがある。
⑧ 外部委託	提供された個人情報を、個人情報に関する機密保持契約を締結している業務委託会社へ、利用目的の達成に必要な範囲で委託することがある。委託会社に対しては、適切な取扱い及び保護を行う。
⑨ 開示請求等について	SIIに保有している個人データ、個人情報の利用目的の通知、個人情報の開示、内容の訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止等に誠実に対応する。手続きは下記の相談窓口まで連絡すること。請求内容を確認の上、対応する。 ＜相談窓口＞ 一般社団法人 環境共創イニシアチブ 個人情報取扱管理担当 p-support@sii.or.jp

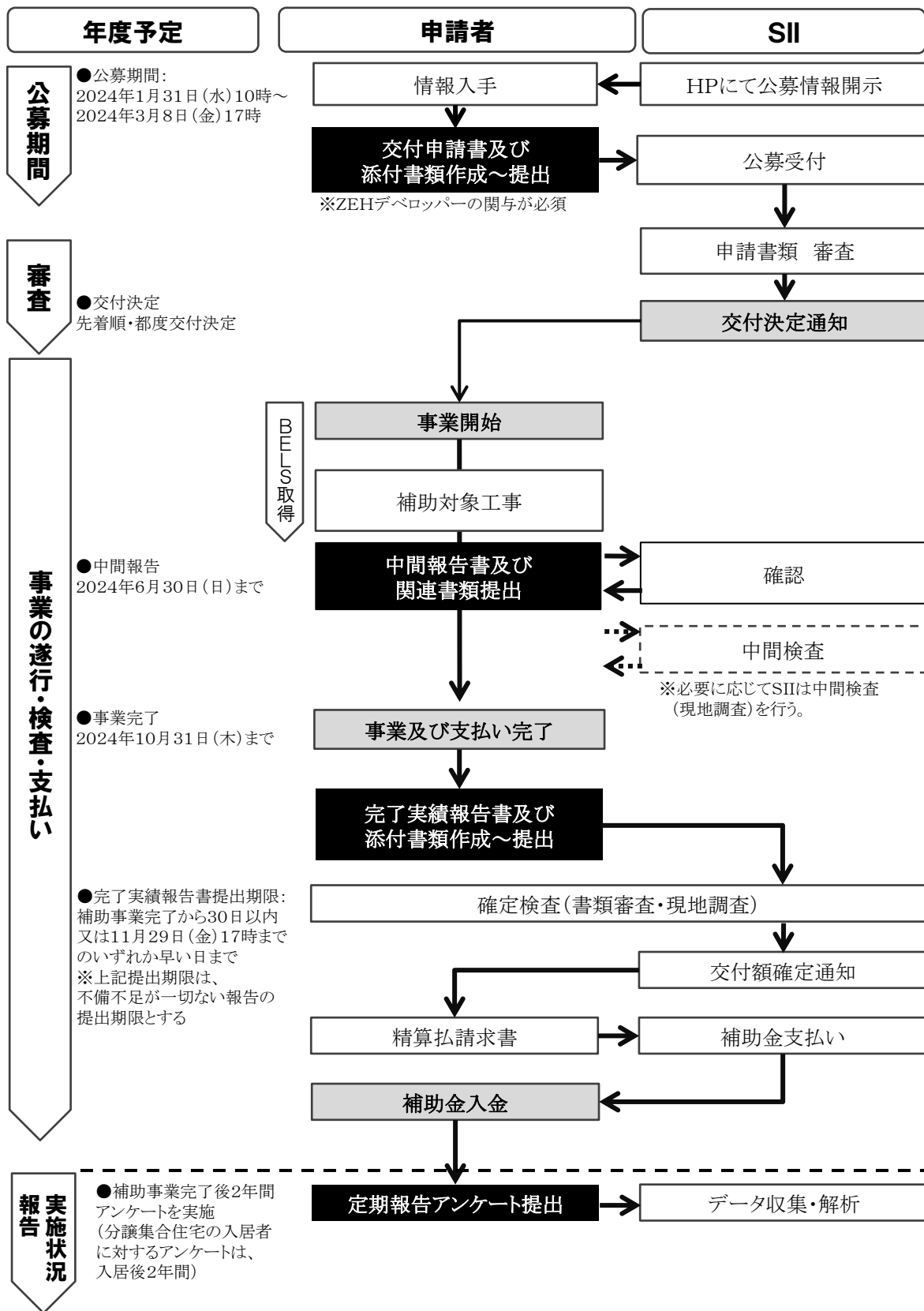
(別表) 個人情報の本事業における提供先(No. ⑧に示す外部委託先を除く)、利用目的、提供情報は以下のとおり。

提供元	提供先	利用目的	提供情報	備考
1 SII	国	本事業の申請状況・効果分析、外皮性能・省エネ・省CO2効果等の分析、製品・サービス等の研究開発、その他省エネ・省CO2に資する調査・研究等	②(ア)(イ)(ウ)	SIIから国への提供時に匿名加工は行いません。
2 SII	学校法人、行政機関、研究開発を業とする法人・研究者の内、学術・研究・調査・開発目的のみに使用することに同意したもの。 SIIのホームページで情報提供前に提供先の会社名、連絡先を取得した上で、利用目的を明示し、同意を取得した方のみ提供します。	・内外の経済的社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギー需給構造の構築に対する学術・研究・調査・商品/サービス開発等 ・住宅・建築物における省エネルギー化、脱炭素化を支援し、2050年カーボンニュートラル達成に向けた学術・研究・調査、商品・サービス開発等	②(ア)(イ)(ウ)	—

3章 事業の実施

3 事業の実施

3-1 事業フロー



3-2 公募～交付決定

(1) 事業の公募

SIIは、補助事業を行おうとする者に対し、先着順に公募を受け付ける。

また、SIIでは、申請状況をもて必要に応じて受付可能な補助金の残額をホームページで公表するので、申請の目安とすること。

SIIホームページ(https://sii.or.jp/moe_zeh_m05/zeh_ml/public.html)に公募情報を掲載する。

(2) 交付申請

申請者は公募要領を熟読の上、原則、SIIが提供する「低層ZEH-M補助金申請ポータルサイト(以下「ZEH-Mポータル」という。)」を利用した電子申請により、行うこと。

なお、電子申請により交付申請を行った場合は、郵送等による申請書類の送付は不要。

ZEH-Mポータルを使用した電子申請の詳細方法は「低層ZEH-M補助金申請ポータルサイトマニュアル」を参照すること。

(3) 申請実務協力者

以下の申請者は、補助事業の円滑な遂行を目的として、補助事業に関与するZEHデベロッパーに申請実務担当業務の協力を求めることができる。

- ・ 個人、日本国内で事業を営んでいる個人事業主
- ・ ZEHデベロッパー登録を受けていない法人

(4) 審査

学識経験者を含む関係分野の専門家で構成された審査委員会で定めた審査基準に基づき、応募のあった申請書を審査する。

(5) 採択

SIIは、審査の結果、交付要件を満たしていることを確認した申請について、補助事業を採択する。

(6) 交付決定

SIIは、採択事業について交付決定を行う。

交付決定とは、申請書を受付けた後、その内容が適正であると認めた旨を通知するもので、補助金の交付並びに交付額を確定するものではない。交付決定後、申請内容どおりに事業が実施されない等、適正な事業の実施・遂行が認められない場合には交付決定の取消しとなる場合がある。

審査の結果については、交付規程にしたがって採択、不採択に係らず申請者に通知する。

(本事業では、事務取扱説明会は実施しない。)

(注1) 審査に関する個別の問合せについては、一切、応じられないことを了承すること。

(注2) 国の他の補助事業等と本事業に重複して補助対象が申請されている場合は、他の事業での申請を取下げを条件に交付決定する。

(7) 採択事業の公表

① SIIに提出された申請や報告の情報(事業者名、事業概要、補助金交付決定額等)は、国又はSIIから公表される場合がある。

なお、交付決定等に関する情報はジービズインフォにおいてオープンデータとして原則公表される(個人申請を除く)。ジービズインフォWebサイト:<https://info.gbiz.go.jp/>

② SIIホームページでは、当該補助事業者の財産上の利益、競争上の地位等を不当に害するおそれのある部分について当該事業者が申し出た場合は、原則公開しない。

③ 個人事業主による申請の場合は、補助金交付決定額は原則公表しない。

3-3 補助事業の開始

補助事業者は、SIIから交付決定通知を受けた後に、BELS取得及び補助対象工事の開始が可能となる。なお、交付決定日前にBELS取得及び補助対象工事に着手した場合は、交付決定の取消しとなる。したがって、以下の点に留意すること。

- ① BELS取得及び補助対象工事の着手は、SIIの交付決定日以降とすること。
- ② 当該年度に実施された補助対象経費の支払いは、当該事業年度の交付決定日から事業完了日までの間に行うこと。

3-4 中間報告

交付決定を受けた補助事業は2024年6月30日(日)までに、遅滞なく以下の書類をSIIに提出すること。

提出書類	備考
①着手前写真	撮影した着手前写真をSII指定の形式で提出すること。
②確認済証の写し	確認申請不要の場合はSIIへ相談すること。
③BELSの写し (住棟評価書と全住戸の住戸評価書)	Nearly ZEH-M以上の住棟評価書を取得すること。 住戸評価書については、ZEHランクを問わない。
④エネルギー計算書 (BELS申請時に提出したものの写し)	国立研究開発法人 建築研究所が公開する計算支援プログラム等を使って算出した年間の一次エネルギー消費量の計算結果表の写しを提出すること。なお、評価機関に提出したもの(評価機関の押印があるもの)に限る。
⑤平面図、立面図及び 矩計図又は断面図	BELS申請時に提出したものの写し(評価機関の押印があるもの)に限る。

3-5 補助事業の注意事項

交付決定からの事業内容の変更は原則認められない。やむを得ず事業内容の変更の可能性が生じた場合は速やかにSIIに連絡し指示に従うものとする。また、変更により本事業の要件に不適合となった場合は補助金の交付を受けることができないので注意すること。

3-6 補助事業の完了

以下の全てが完了した時点をもって補助事業の完了とする。なお、期日以内に以下のいずれか1つでも完了しなかった場合は、減額及び交付決定の取消しとなる場合があるので注意すること。

- ① BELSの取得
- ② 補助対象工事の完了
- ③ 工事請負会社等からの補助対象工事の引渡し
- ④ 補助対象工事等に関する全ての支払いの完了
支払いは現金払い(金融機関による振込)で行うこととし、原則、金融機関が発行する入出金明細照会に限る。

3-7 実績報告及び確定検査(書類審査・現地調査)

- ① 補助事業者は、補助事業が完了した日から30日以内又はSIIが定める期日のいずれか早い日までに、「完了実績報告書」をSIIに提出する。
- ② SIIは「完了実績報告書」の報告を受け、書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行う。
- ③ 確定検査は、補助事業がその目的に適して公正に行われているかを判断する検査であり、補助金の額を確定するためのものである。確定検査に合格しない場合は補助金の交付ができないだけでなく、交付決定の取消しの対象となり、さらに不正行為等が認められた場合は、処罰の対象となるので、事業遂行にあたっては細心の注意を払うこと。
- ④ 申請どおりの省エネルギー効果が得られないと見込まれる場合、あるいは申請どおりの設備が設置されていない場合は、補助金の支払いが行われなかったことがある。
- ⑤ 補助対象経費の中に補助事業者の自社製品の調達分(工事等を含む)がある場合は、補助対象経費から補助事業者の利益相当分を排除した額を補助対象経費の実績額とすることがある。

3-8 交付額の確定及び補助金の支払い

SIIは「本事業の交付要件」と「その補助事業の交付決定の内容」に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に速やかに通知する。

補助事業者は、補助金の額の確定後、「精算払請求書」をSIIに提出し、SIIは「精算払請求書」の受領後、補助事業者に補助金を支払う。共同申請の場合は、SIIに相談すること。

3-9 取得財産の管理等

補助事業者は、補助事業により取得し又は効用の増加した財産(取得財産等)については、補助事業の完了後においても善良なる管理者の注意をもって管理し(善管注意義務)、補助金の交付の目的にしたがって、その効率的運用を図らなければならない。

補助事業者は耐用年数の期間内に取得財産等を処分しようとするときは、あらかじめ財産処分承認申請書をSIIに提出し、その承認を受けなければならない。万一、未承認のまま財産処分が行われた場合、SIIは交付決定を取消し、加算金(年利10.95%)とともに補助金全額の返還を求めることがある。

SIIは、補助事業者が取得財産等を処分することにより、収入があり又は収入があると認められるときは、その収入の全部又は一部をSIIに納付させることができるものとする。

<分譲集合住宅における重要事項>

ZEHデベロッパーなどの事業主体が補助金の交付を受ける場合、住宅専有部については、不動産売買契約時に入居者へ、住宅共用部については、管理組合が組織された後、管理組合へ、速やかに補助事業を承継する手続きをSIIに対して行うこと。

その際、事業継承者に対し、「定期報告アンケートの提出」、「取得財産の適正管理」、「エネルギー管理支援サービスの加入(ある場合のみ必須とする)」など、補助事業者と同様の義務を負うことを確認する書類(契約書等)の提示ができること。

<財産処分について>

交付規程に則り、財産処分を行いSIIの承認後、返金が発生する場合は、下記の方法で返金額を計算する。

- ・処分制限財産の取得日(支払日)を起算日とする。
- ・処分制限財産に対し、転用、譲渡、交換、貸付け、担保に供する処分、取壊し、廃棄を行った日を処分日とする。
- ・処分制限期間は補助対象住宅の財産取得日(引渡受領日)から6年とする。
- ・計算用の決算日を3月31日とする。
- ・減価償却方法は、原則「定額法」を採用する。
- ・上記の条件で補助対象経費の残存簿価を計算し、残存簿価の補助金相当額を返金額とする。

※その他、平成20年5月15日(令和5年9月1日改正)大臣官房会計課の「環境省所管の補助金等で取得した財産の処分承認基準について」に該当する場合(転用・譲渡・交換・貸付け・担保・廃棄・取り壊しの財産処分)においても同様とする。

3-10 交付決定の取消、補助金の返還、罰則等

交付決定後に交付申請内容が本事業の交付要件を満たさないことが発覚等した場合は、審査の結果に係らず交付決定の修正又は取消の措置を講じることがある。

また、万一、交付規程に違反する行為がなされた場合、次の措置が講じられ得ることに留意すること。

- ① 補助金適正化法第17条の規定による交付決定の取消、第18条の規定による補助金等の返還及び第19条第1項の規定に準拠した加算金の納付。
- ② 補助金適正化法第29条から第32条までの規定による罰則。
- ③ 相当の期間補助金等の全部又は一部の交付決定を行わない。
- ④ SIIの所管する契約について、一定期間指名等の対象外とする。
- ⑤ 補助事業者等の名称及び不正の内容の公表。

【注意事項】

- ① 本事業で導入した設備等については、SIIが補助事業の対象となり得るものとして指定したものであり、補助対象設備導入に係る補助事業者と設計者及び施工者等との契約、施工、設備等の品質・性能、燃料等の調達、導入完了後の保守や保証、知的財産権等をSIIが保証するものではない。
万一、上記に関する紛争が起きてもSIIは関与しない。
- ② 申請者及びZEHデベロッパーは、虚偽の内容を含む提案・申請をしてはならない。
その内容に偽りがあることが補助事業完了後に判明した場合、民事上及び刑事上の法的責任が生ずる可能性があることを認識し、誠実かつ的確な提案・申請をすること。
不正をしたことが明らかになった場合は補助金の支払いを行わない。また、不正な行為により補助金を受給した場合は、民事上及び刑事上の法的責任が生ずる可能性があることを十分に認識した上で、適正に手続きを行うこと。

(注)表紙裏面“補助金を申請及び受給される皆様へ”を確認すること。

3-11 よくある質問について

SIIホームページに「よくある質問」を掲載しているので、確認すること。

https://sii.or.jp/moe_zeh_m05/zeh_ml/faq.html

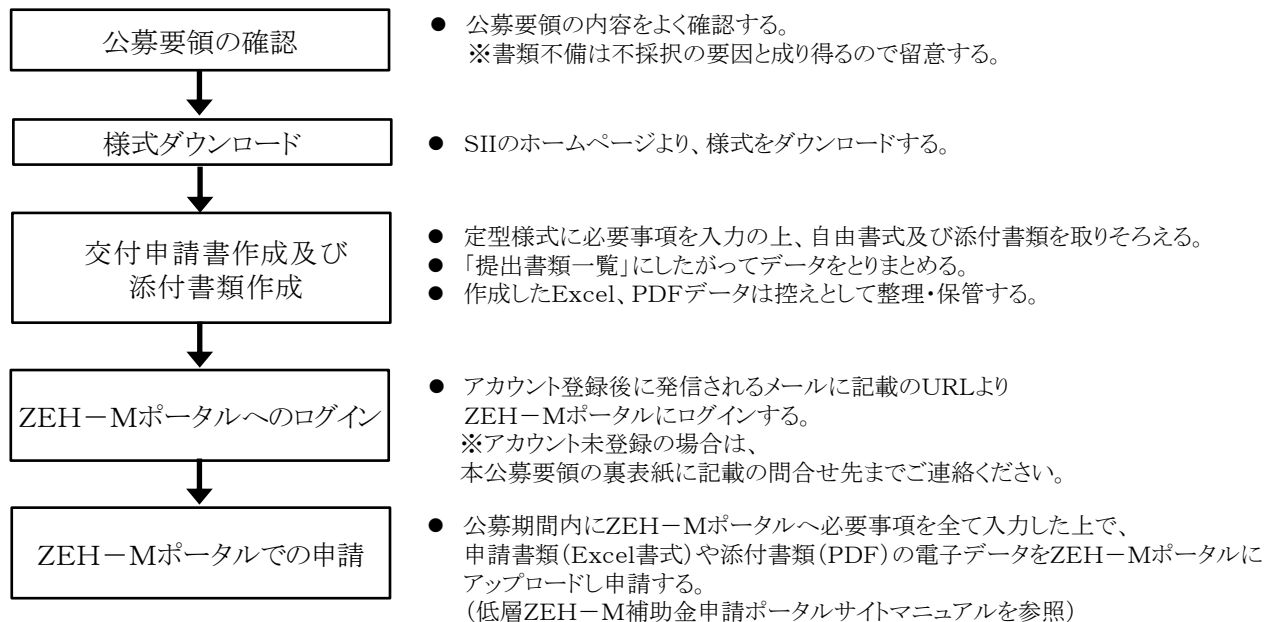
4章 交付申請の方法

4 交付申請の方法

4-1 申請について

(1) 申請の流れ

申請についてはZEH-Mポータルを利用し、以下の方法で行う。



4-2 申請書類リスト

項目名	書類名	書式	提出区分	特記事項		
①交付申請書	別紙2 暴力団排除に関する誓約事項	指定	必須			
	別紙3 役員名簿	指定	該当	・法人申請のみ提出すること ・共同申請の場合は全申請者分を提出すること		
②誓約書	誓約書	指定	必須	・押印不要 ・共同申請の場合は全申請者分を記載すること		
③実施計画書	1. 全体概要	指定	必須			
	2. 住戸一覧		必須			
	3. その他事業情報		必須			
	(別添) 設備タイプ別設備仕様書		必須	・設備タイプごとに作成すること ・指定された別ファイルで作成すること		
	4. 工程表		必須			
	5-1. 補助金額算出表 その1		必須			
	5-2. 補助金額算出表 その2		該当	追加補助対象となる設備等(蓄電システムを除く)を導入する場合は提出すること		
	6. 蓄電システム明細		該当	蓄電池を導入する場合は提出すること		
	7. 水害等の災害時の電源確保に配慮した蓄電システム導入計画の詳細		該当	水害等の災害対策に対する補助額の加算を受ける場合は提出すること		
	追加補助設備		8. 直交集成板(CLT)明細	該当	該当	直交集成板(CLT)を導入する場合は提出すること
			9. 地中熱ヒートポンプ・システム明細	該当	該当	地中熱ヒートポンプ・システムを導入する場合は提出すること
			10. PVTシステム明細	該当	該当	PVT(太陽光発電パネルと太陽熱集熱器が一体となったもの)システムを導入する場合は提出すること
			11. 液体集熱式太陽熱利用システム明細	該当	該当	液体集熱式太陽熱利用システムを導入する場合は提出すること
12. V2H充電設備(充放電設備)補助金算出シート		該当	該当	V2H充電設備(充放電設備)を導入する場合は提出すること		
13. EV充電設備補助金算出シート		該当	該当	EV充電設備を導入する場合は提出すること		
④財務資料	直近1期分の財務諸表・決算短信表(単独決算)等の写し	写し	該当	直近1期分を提出すること ※共同申請の場合は全申請者分(個人事業主の場合は確定申告書類の写し)		
⑤土地登記簿等	土地登記簿謄本(登記情報提供サービスの出力可)	写し	必須	・発行日から3か月以内のもの ・交付申請時に未登記の場合は、土地所有者の確認ができる書類(購入契約書の写し等)を提出すること		
⑥建物図面	建物案内図	自由	必須			
	建物配置図	自由	必須	・設備工事ごとに編集しカラー印刷すること (例)空調設備・機器表・設備設置図		
	建物平面図・各階平面図	自由	必須	・平面図に部屋番号を記入すること ・補助対象設備を平面図に明示すること		
	建物立面図	自由	必須	・「建物立面図」には太陽光搭載屋根面に太陽光パネルの容量を明記する、もしくはパネル割付図を提出すること		
	断面図または配管図	自由	必須			
⑦追加補助設備に係る書類	平面図(兼設備設置図)	自由	該当	・直交集成板(CLT)、地中熱ヒートポンプ・システム、PVTシステム、又は液体集熱式太陽熱利用システムを導入する場合は提出すること ・補助対象となる建材又は設備について設置場所を記入すること		
	システム構成部材一覧	自由	該当	・直交集成板(CLT)、地中熱ヒートポンプ・システム、PVTシステム、又は液体集熱式太陽熱利用システムを導入する場合は提出すること ・導入する建材又は設備の部材名、メーカー、数量、単位を記入すること		
	システム構成図	自由	該当	・直交集成板(CLT)、地中熱ヒートポンプ・システム、PVTシステム、又は液体集熱式太陽熱利用システムを導入する場合は提出すること ・イラストや構成図等を用いて、システム全体を表現すること		
	V2H充電設備(充放電設備)・EV充電設備カタログ	自由	該当	・V2H充電設備(充放電設備)又はEV充電設備を導入する場合は提出すること ・補助対象となる設備のカタログ又はWebカタログの表紙と該当設備が記載されているページ・カタログには、該当設備が記載されたページに付箋を貼り、型番に蛍光ペン等でマークを入れること		
	V2H充電設備(充放電設備)・EV充電設備見積明細	自由	該当	・V2H充電設備(充放電設備)又はEV充電設備を導入する場合は提出すること ・充電設備本体の価格が確認できること ・見積書は死先、発行元、発行日が確認できること		
	リース契約書(案)	自由	該当	・蓄電システム、太陽熱利用温水システム、V2H充電設備(充放電設備)・EV充電設備をリース契約する場合は提出すること ・リースの期間は原則法定耐用年数以上とすること		
⑧商業登記簿/本人確認書類	現在事項全部証明書(登記情報提供サービスの出力可)	写し	必須	発行日から3か月以内のもの ※個人等の場合は公的機関発行の本人確認ができる書類(運転免許証の写し等)を提出すること ※共同申請の場合は全申請者分		
⑨個人情報の取得と利用について		指定	必須	・押印不要 ・共同申請の場合は全申請者分を記載すること		
⑩委任状		指定	必須			
⑪その他		自由	該当	その他申請に必要な書類がある場合		

補助事業の詳細は、SIIホームページをご覧ください

「低層ZEH – M促進事業」

https://sii.or.jp/moe_zeh_m05/zeh_ml/public.html

問合せ先 **TEL** 03-5565-4533

【受付時間】 平日 10:00～12:00、13:00～17:00

上記以外の電話番号に問い合わせても、一切回答はいたしかねるため、必ず上記の問合せ先に連絡すること。